

1 単元について

対 象 学 年	中学校 第1学年
学習指導要領	第1学年の内容 B 書くこと(1)イ、ウ、エ 言語事項(1)カ
単 元 名	「心の成長を伝えよう」(全7時間)
単 元 目 標	手紙の種類や書式への理解を深めるとともに、手紙のよさを生かしながら自分の成長点を進んで書くことができる。(国語への関心・意欲・態度) 相手や目的を明確にし、自分の考えや決意が伝わるように具体的な事実を選んで手紙を書くことができる。(書く能力) 書いた文章を読み返し、表記や書き出し、中心部分の展開などを工夫して読みやすく分かりやすい文章にすることができる。(書く能力) 話し言葉と書き言葉との違いを理解し、両者の効果を考えながら適切に使い分けすることができる。(言語についての知識・理解・技能)
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 個の学習状況に応じた多様な指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が成長したところを明らかにできない生徒には、学校生活を振り返ることができるよう、集材プリントに項目をいくつか提示し、項目ごとに「思ったこと」「できたこと」「感じたこと」を書くよう働きかける。 ・成長のきっかけとなった事実を具体化できない生徒には、具体的に書き出すことができるよう、対話を通して観点(会話・様子・気持ち・わけ)を意識させる。また、日記等によって、そのときの様子を想起できるようにする。 ・単元の終末に既習事項の観点から原稿の加除修正を行うことによって、既習事項の定着を図る。 <p>一人一人のよさや進歩の状況の評価結果を学習活動に生かす指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しを持ち、自分の表現のよさや課題を明確にできるよう、評価の観点を明確にした自己評価カードを活用し、自己評価できるようにする。また、教師が自己評価の根拠としている学びの姿を価値付ける。 ・ものの見方や考え方を深めることができるよう、個々の見方や考え方を発言や学習プリントに表現できるようにし、評価規準に照らして教師の意味付けを明確に行う。 <p>【言語活動】自分の考えをまとめた手紙を書くこと 【言語意識】</p> <p>(相手) 小学校の先生や自分の両親・祖父母にあてて (目的) 中学校生活で成長しつつある自分を伝えるために (場面 読み手を思い描きながら、800字程度で ・状況) (方法) 自分の考えや決意と経験や見聞との関係を考えた手紙文で (評価) 考えや決意が分かりやすく伝わるかという観点からの自己評価及び相互評価を通して</p>
参 考 資 料	<p>資料1：第1～6時の評価プリント・・・「自己評価カード」単元の見通しと単元で付けたい力を意識するために使用</p> <p>資料2：第1時の学習プリント・・・「手紙の形式」手紙の種類や形式をまとめるために使用</p> <p>資料3：第2時の学習プリント・・・「集材プリント」主題を導き出すために使用</p> <p>資料4：第3時の提示資料・・・「教師モデル資料」主題と具体的な事実とのつながりを考えさせるために使用</p> <p>資料5：第4時の学習プリント・・・「手紙構想メモ」文章の構成を考えさせるために使用</p>

2 単元の評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
内容のまとめりごとの評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしたり、進んで書き表そうとしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活や学習の中から課題を見付けている。 課題に関する材料を集め、それを基にして自分の考えをまとめている。 伝えたい事実や事柄、課題、自分の考えや気持ちを明確にしている。 自分の考えや気持ちを的確に表すために、広い範囲から適切な材料を選んでいる。 書いた文章を読み返して、読みやすく分かりやすい文章にしている。 互いの文章を読み、題材のとらえ方や材料の集め方などについて相互に学び合って、自分の表現の参考にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して書き、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語彙に関心をもっている。 文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて書いている。 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをする語句などに注意して書いている。 話し言葉とは違う書き言葉の特色や役割を理解し、適切に書いている。
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 手紙の種類や書式への理解を深めるとともに、手紙のよさを生かしながら進んで書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙などの通信文において、相手や目的、伝えたい内容等を明確にしようとしている。 テーマに関する材料を集め、それを基にして自分の考えを手紙形式にまとめている。 書いた文章を読み返し、表記や書き出し、中心部分の展開などを工夫して読みやすく分かりやすい文章にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉と書き言葉との違いを理解し、両者の効果を考えながら適切に使い分けられている。
単位時間における具体的な評価規準	<p>手紙の種類や書式に関心をもち、手紙のよさについて進んで話そうとしている。</p> <p>手紙のよさを味わいながら学習の成果を生かして手紙を書こうとしている。</p> <p>3 自分の学習を振り返り「書く」ことに対して次への課題をもっている。</p>	<p>日常生活や行事への取組を振り返り、自分の考えの変化やこれからの決意をまとめている。</p> <p>自分の考えや決意がよく分かるように、行事や活動における体験や見聞などの具体的な事実を選んでいる。</p> <p>自分の考えや決意及び選んだ事実の意図を考えながら相手意識をもって分かりやすく書こうとしている。</p> <p>互いの文章を読み合い、事実の取り上げ方や主題の導き方についてのよさを見付けている。</p>	<p>書き言葉の特色を考え、場面の状況がよく伝わるような言葉や表現を選んでいる。</p>

3 指導と評価の計画（全7時間）

	ねらい	学習活動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	手紙の形式表現方法及び手紙のよさに気付き自らも書こうとすることができる。	手紙にまつわる思い出の交流を通して学習内容を知るモデルとなる手紙を読み、気付いたことを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">モデルの手紙を通して手紙の素晴らしさを味わおう。</div> 手紙の種類と基本的な形式についてまとめる。相手にふさわしい時候の挨拶や結びの文を調べる。	ア - 手紙の種類や書式に関心をもち、手紙のよさについて進んで話そうとしている。	観察 気付いたことを進んで話そうとしているか評価する。	話し合う観点を具体的に示す。（伝えたいことがうまく伝わっているところ・読み手の心を打つところなど） 国語便覧を参考に、先生・友達・家族を対象とした前文を選んで書き抜くよう働きかける。
2	考え方の広まりや深まりが自分の成長であることに気付き、主題文を書くことができる。	これまでの生活を振り返り、心に残る場面とその理由を交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">自分が成長したところを明らかにし、主題文を書こう。</div> 集材プリントの観点に沿って自分の印象に残る事柄と理由を書く。 生活班で交流し、自分の気付かないことを知る。 自分が成長した点を一文程度で書く。	ウ - 日常生活や行事への取組を振り返り、自分の考えの変化やこれからへの決意をまとめている。	学習プリント 集材の観点に沿って集めた考えや気持ちの変化から主題を導き出しているか評価する。	家族に対して、感謝の気持ちを伝えるために、自分の成長したところを書く手紙であることを確認する。 学校生活を振り返る項目をいくつか提示し、項目ごとに「思ったこと」「できたこと」「感じたこと」を書いてみるよう働きかける。
3 (本時)	主題文の根拠となる事実を詳しくする観点が分かり、観点にしたがって事実を具体的に付箋に書くことができる。	教師モデルA, Bから ・主題と選んだ事実との関係（前時の確認） ・具体的に書く観点を導き出し、確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">成長のきっかけとなった事実を、観点にそってより具体化しよう。</div> 心に残る出来事の中にある「この瞬間」を絞り込み、	ウ - 自分の考え	付箋 きっかけと	Aモデルの表現を色分けし、観点への気付きを促す。 対話を通して観点への方向付けをする。

		<p>具体的な事実を附箋に書き出す。 主題にふさわしい事実を選んで、観点にそって具体的に書いているかの観点で、生活班で交流する。</p>	<p>や決意がよく分かるよう、行事や活動における体験や見聞などの具体的な事実を選んでいく。</p>	<p>なった他者の言葉や仲間の表情など、観点にそって具体化しているか評価する。</p>	<p>また、日記等によって、そのときの様子を想起できるようにする。</p>
4	<p>主題との関わりから付箋を選び、相手を大切にされた言葉遣いや表現に注意しながら手紙文を書くことができる。</p>	<p>1 / 6 時を振り返り、書き方の留意点を想起する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>付箋の効果的な配置を考えながら、下書きをしよう。</p> </div> <p>「前文」... 1 / 6 時の調べ学習から選択 「主文」... 構成表をもとに記述 「末文・後付け」... 手引きを参考に記述 表記、漢字・語句を見直す。</p>	<p>(ウ -) 自分の考えや決意及び選んだ事実の意図を考えながら相手意識をもって分かりやすく書こうとしている。</p>	<p>下書き原稿 相手意識と目的意識を明確にして、ふさわしい表現をしているか評価する。</p>	<p>1 / 6 時での発言を価値付け、相手に失礼のない言葉遣いで書いていくことを方向付ける。</p> <p>前文 200 字程度、主文 400 字程度、末文・後付け 200 字程度の枠取りをした専用紙を用意する。さらに、主文については、必要に応じて「主題」「事実」等の順序を示すようにする。</p>
5	<p>推敲の観点を明らかにし、その観点から自分や仲間の手紙文を読み合うことができる。</p>	<p>仲間の作品に見られるよさを交流し合い、推敲の観点を明らかにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の考えや決意をより分かりやすく伝える工夫をしよう。</p> </div> <p>主題文とその根拠となる事実との関係を中心に推敲する。 言葉遣いや表記について推敲する。</p>	<p>ウ - 互いの文章を読み合い事実の取り上げ方や主題の導き方についてのよさを見付けている。</p>	<p>下書き原稿の相互評価欄 伝えたい内容を考え決意と事実との関係からとらえているか評価する。</p>	<p>手紙の形式としてのよさへの気付きを価値付けるとともに、3 / 6 時の学習を想起するよう働きかける。</p> <p>考えや決意と根拠となる事実との関係について意見を述べようとする姿を認め励ます。</p>
6	<p>推敲を生かし、相手に自分の思いを伝える手紙文の書き方を身に付けることができる。</p>	<p>前時の学習を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の考えや決意を手で分かりやすく伝え手紙を書こう。</p> </div> <p>下書き原稿への加除修正を見ながら清書する。</p>	<p>オ - 書き言葉の</p>	<p>手紙文 抽象語や副</p>	<p>事前に次の観点で下書き原稿をチェック</p>

	<p>特に、根拠となる事実については、場面の状況がよりよく伝わるよう説明や表現を工夫する。</p> <p>表書きを書く。</p>	<p>特色を考え場面の状況がよく伝わるような言葉や表現を選んでいく。</p> <p>ア - 手紙のよさを味わいながら学習の成果を生かして手紙を書こうとしている。</p>	<p>詞の多用を避け、具体的にしようとしているか評価する。</p> <p>自己評価カード 日常生活で手紙を書こうとする意欲をもっているか評価する。</p>	<p>しておく。（*意見と事実の関係に見られるよさ*詳しくするとよい事実の部分*修正するとよい言い回しや語句*一文の長さ、等）</p> <p>本単元で学んだことをもとに、今後にかそうとする姿を価値付ける。</p>
--	--	--	---	--

手紙を実際に出し、返事をもらおう。

7	<p>手紙の返事を読み、伝えなかったことが伝わったか振り返り、今後の課題を見出すことができる。</p>	<p>返事を読む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>返事を読み、伝えなかったことが伝わったか振り返り、自分の課題を明らかにしよう。</p> </div> <p>返事を読み、伝えなかったことが伝わったか自己評価する。 本単元での自分の学習を振り返り、これからの課題をもつ。</p>	<p>アー 3 自分の学習を振り返り「書く」ことに対して次への課題をもっている。</p>	<p>自己評価カード 手紙を書くことについて、既習内容や今後の「書く」ことにおいて課題を書いているか評価する。</p>	<p>自己評価カードを見て、本単元での成長点と次への課題を確認し、朱書きで価値付けたり方向付けたりする。</p>
---	---	---	--	---	--

4. 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

・主題文の根拠となる事実を詳しくする観点が分かり、観点にしたがって事実を具体的に付箋に書くことができる。

(2) 本時の位置

3 / 7時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	形態	評価について	指 導 ・ 援 助
導入	<p>前時で書いた主題文の紹介を通して、本時は取材の学習をすることを知る。</p> <p>教師モデルA・Bから、主題と選んだ事実との関係（前時の確認）具体的に書く観点を導き出し、確認する。</p> <p>教師モデルA：主題とつながりのある具体的事実が書かれていない例 教師モデルB：主題とつながりのある具体的事実が書かれている例</p>	<p>学級全体</p> <p>個人 学級全体</p>		<p>比較する観点として、「主題に合う体験・事実であるか」「説得力のある事実・体験であるか」「具体的な事実であるか」等を示す。</p> <p>生徒の発言を分類し、取材の観点として位置付ける（板書する） Aモデルの表現を色分けし観点への気づきを促す。</p>
展開	<p>観点にそって見つめ直すといよいことを課題化する。</p> <p>成長のきっかけとなった事実を、観点にそってより具体化しよう。</p> <p>心に残る出来事の中にある「この瞬間」を絞りこみ、具体的な事実を、付箋に書き出す。</p> <p>生活班で観点に沿って交流し、自分の付箋の内容を見直す。 主題にふさわしい事実を選んでる。 観点にそって具体的に書いてる。</p>	<p>個人</p> <p>小集団</p>	<p><ウー2> 自分の考えや決意がよく分かるよう、行事や活動における体験や見聞などの具体的な事実を選んでる。 付箋 きっかけとなった他者の言葉や仲間の表情など、観点にそって具体化しているか評価する。</p>	<p>対話を通して、日記等によって、そのときの様子を想起するよう助言する。また、観点（会話・様子・気持ち・わけ）を示す。 主題を支えるのにふさわしい材料を選んでいる生徒を価値付ける。 具体的な事実を観点別（会話・様子・気持ち・わけ）に分けて、付箋に書くよう助言する。 観点にそって話し合う姿を価値付ける。</p>
終末	<p>自己評価カードに本時の振り返りを記入し、発表する。</p>	<p>個人 学級全体</p>		<p>自己評価の根拠としている学びの姿を価値付ける。</p>

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

ウ - 2

自分の考えや決意がよくわかるよう、行事や活動における体験や見聞などの具体的な事実を選んでいる。

(2) 評価の実際

【評価方法】付箋

【判断した生徒の状況例】

- ・成長のきっかけとなった事実を明確にして、その事実を観点別に具体的に書いている姿については、「おおむね満足できる状況」にあると判断した。
- ・成長のきっかけとなった事実を明確にできず、したがって具体的にその事実を書くことができない姿については、「努力を要すると判断した状況」にあると判断した。

この要因としては、

その事実をなかなか想起できないこと

どの観点で具体化するかがはっきりしないこと

が考えられる。

(3) 個に応じた指導の実際

- ・きっかけとなった事実を想起できないことが要因と考えられる生徒に対しては、机間指導で、日記や総合学習個人ファイル（総合的学習の振り返り等を書いたもの）等によってそのときの様子を思い起こすよう助言し、さらに観点（会話・様子・気持ち・わけ）を示し、助言した。生徒は、そのときの様子を思い起こし、付箋に具体的な事実を記述することができた。
- ・どの観点で具体化するかがはっきりしないことが要因と考えられる生徒に対しては、机間指導で、成長のきっかけとなった事実を具体化するには、どの観点到にそつて書くとよいか助言した。生徒は、その観点到に気付き、観点到にしたがって事実を具体的に付箋に記述することができた。